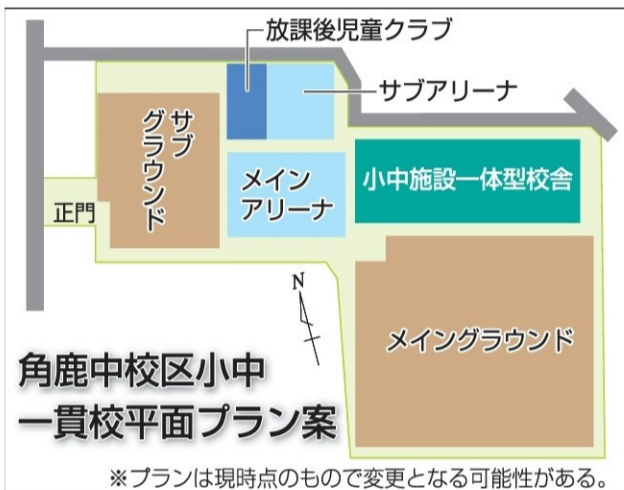


小中一貫校は「角鹿」

敦賀市教育会議が決定

現校庭北に一体型校舎

敦賀市総合教育会議は21日開かれ、角鹿中に2021年4月に開校予定の小中一貫校の校名について「角鹿小中学校」に決定した。地元住民らによる投票で5割の得票があった案で、市は3月市会に名称を決める市立学校設置条例改正案を上程する。また、校舎の施設整備の検討状況について、現在のグラウンド北側に小中施設一体型の校舎を新設する案が報告された。(藪内弘直)



※プランは現時点のもので変更となる可能性がある。

一貫校は角鹿中と校区内の敦賀北、赤崎、咸新の3小学校を統合して設置する。校名について地元区長らによる設置準備委員会(事務局教委)は2回の投票を行った。6候補の名から1つを選ぶ2回目の投票には1107票の投票があり、「角鹿」が536票と全体の48・4%、「角鹿明屋」167票(15・1%)、「角鹿の杜」149票(13・5%)、「天筒」127票(11・5%)などと続いた。敦賀美方消防本部会議室で開かれた会議には湖上隆信市長らが出席。投票の結果、約半数が現在の校名を残したい、学校の伝統や歴史を守り今後を受け継いでほしいとの願いを持っているなどとして、現在の「角鹿」が新校名にふさわしいと判断した。

施設整備の検討状況については小中一体型の校舎は3階建てで、現在のグラウンド北側に整備するとし、メイングラウンドとサブグラウンド、メインアリーナ(体育館)とサブアリーナを設ける平面プラン案が示された。北、咸新、第2咸新を統合した放課後児童クラブも整備する。

メインアリーナは現在の角鹿中体育館を大規模改修。サブアリーナと児童

クラブは既存校舎の解体から質問があり、事務局跡地に整備する。グラウンドやアリーナは小学校用と中学校用とに固定せず柔軟な運用にすることを。現在のグラウンドが狭くなることについて委員した。

クラブは既存校舎の解体から質問があり、事務局跡地に整備する。グラウンドは「メイングラウンド」は7250平方メートル、サブアリーナは小学校用と中学校用とに固定せず文科省の中学校の設置基準の3600平方メートルは満たしている「など」と説明した。